

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	地域とのふれあいを進めることで、双方向のつながりを深めていく。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	毎日の関わりの中で常に理念が活かされるように取り組んでいきたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	○	地域に対してさらに広く事業所の役割や機能を伝えるための施策を考える。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	利用者に混乱を与えることのない範囲で地域住民とのふれあいを進めていきたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	できることから少しずつ地域の一員として、利用者、職員共に地域活動に参加していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者の実態については把握しておらず、具体的な活動はしていないが、中学生の職場体験学習等は積極的に受け入れている。	○	運営推進会議等で事業所として地域高齢者福祉に役立つことはないか検討していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を実施するにあたり、職員会議、ユニット会議で、評価の意義の理解と活用についての検討会を行っている。	○	ガイドブックでの考え方の指針、着眼点を職員一人ひとりが充分理解し、実践できるよう職員会議の議題にするなどして定期的に取り上げていく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	単なる報告検討会にならないよう、アプランの事例発表、ターミナルケアについての意見交換会等、委員それぞれの意見を幅広く伺い、サービス向上に努めている。	○	利用者からも意見が出しやすい関係、雰囲気づくりをすすめる。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在は運営推進会議委員の市職員との意見、情報交換が主であり、疑問点や問題点に関しては、指摘、助言を随時頂いている。	○	積極的な連携の推進を図る。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者、家族から権利擁護に関する相談及び必要とする事例がこれまでないため、全体的な職員の理解度は浅い。しかし、研修等には順次参加するようにしている。	○	ホーム内での勉強会を定期的に行う。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議、ユニット会議等の場において、高齢者虐待防止法を中心に自分の言動や行動が虐待にあたらないか注意を促している。	○	全職員が常に自分の言動の振り返りが行えるよう、勉強会の場を設ける。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には契約書、重要事項説明書並びに医療連携体制を中心に説明を行い、質問に関しては補足する文章を明示し、分かりやすいよう工夫している。解約に至る場合は、法人施設との連携を図りながら不安がないようフォローしている。</p>	○	利用者、家族の立場になって、わかりやすく、不安や心配を与えることのない説明や資料を提案する。
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>毎月、利用者自治会を開催し、生活全般にわたっての、意見、不平、苦情等なんでも遠慮なく話し合える場を設けている。</p>	○	定期的に個別の意見や不満がないか尋ねる。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、各担当職員が近況報告書を作成し、1ヶ月間の様子を報告している。また、金銭出納簿の写し、ユニットたより、アンジュ通信(季刊)等を送付している。</p>	○	近況報告書ばかりでなく、随時、報告・連絡・相談を行うようにする。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議や日頃の面会時における家族の意見を尊重し、意見や要望に関してはユニット会議等で取り上げずぐに対応するようにしている。</p>	○	普段、意見や要望を言われない家族に対しても、こちらから声を掛け、気軽に言っていたらいいような関係を築いていきたい。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議、ユニット会議、夜勤者会議等で意見を聞く機会を設けている。会議の場で言いにくい事に関しては提案・要望書を用意している。</p>	○	職員の意見が伝わりやすい組織構造にする。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況変化に伴う勤務調整は、ユニット間柔軟に話し合い調整している。</p>	○	夜勤者の増員
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動は基本的に行わないようしている。やむを得ない事情が生じた場合も、利用者混乱が生じないよう十分な配慮をしている。</p>	○	利用者、家族に不安、不満をあたえないよう、異動は最小限に抑える。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	○	決められたテーマに基づく事例発表会を行う。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	○	多くの事業所との交流研修、連携を深めていきたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	○	余裕のある人員配置を進める。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	○	あせることなく十分に家族の状況や思いを理解するように努める。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が必要としている情報や支援に関して、可能な限りその望みに適応した情報を提供している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に家族、本人に見学していただき、地域の様子(商店、神社、お寺等々)、事業所の設備、雰囲気等体感してもらっている。また、要望があればお試し入所のサービスも勧めている。	○	本人が理解し納得してから入所されるよう、十分な期間と家族の理解を促していく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除、散歩といった生活の様々な場面において、共に過ごし、一緒に笑ったり、歌ったり、作業したりと安心できる馴染みの空間、関係作りをしている。	○	利用者それぞれの個性を大切にしながら、親しくなる中にも人生の先輩として尊ぶ姿勢を職員は常に持つようにする。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族には日頃の様子を文書や面会時に細かく伝えるようにしている。また、家族の思いと本人の思いが異なる場合、あせらずにお互いの思いが繋がるよう支援している。	○	情報の共有を深め、家族と共に本人の生活を支えていく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者・家族・職員が三位一体の関係になるよう努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通い入れた馴染みの病院、美容院、お店などがある場合は、関係が途切れないような支援をしている。また、友人、知人の訪問があった場合は、気軽に尋ねてきやすい雰囲気作りをしている。	○	友人、知人宅を訪問できるような関係性の構築
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の相性に充分配慮し、席の配置、行事等での役割、全てに気を配っている。また、利用者同士の個性や特性を考慮しながら自然に良い形で関係性が深まるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病院へ入院された場合等面会等についている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や意向を知るため、担当職員はゆっくりと話を聞いたり、入浴、趣味活動等のリラックスした場面で何気なくその人の思いを把握するようにしている。	○	意思疎通が困難な利用者に対して、関心を深め希望、意向の把握に努める。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用に際しては十分なインテークを行うようしている。また、入所後も継続して、家族、本人からの情報収集に努めている。	○	本人、家族に不快感を与えないよう配慮しながら情報を得る。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活のあり方を把握し、日常会話、行動から心身状態の把握に努めている。いろいろな誘い掛けを行いながら、できそうなこと、できることの把握に努めている。	○	できることの継続
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメント、ケアプラン作成、ケアカンファレンス、モニタリング等全スタッフで意見交換しながら行っている。	○	ケアプランを業務の中に取りこみ、毎日実践できる工夫。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月毎に評価、見直しを行っている。また、著しい状態変化がある場合は都度ケアカンファレンスを行い、新たなケアプランを作成している。	○	新たなケアプラン作成時には、本人、家族の意見を取り入れる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別記録に記入している。気づきや工夫の記録が少なく、実践に反映できていないところがある。	○	日々の様子だけの記録でなく、そこから気づきにつなげて行けるように情報の共有をする。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の付き添い、送迎等は常時行っているが、事業所及び職員の機能を活かしたショートステイ等の支援は現在行っていない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員には助言や訪問をしていただいているが、多様な地域資源の活用までには至らない。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	町内会主催の健康体操や講演等参加している。	○	本人の希望があれば事業所以外のサービスを活用していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの職員は運営推進会議に毎回参加していただき、意見交換している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後も本人家族が希望する主治医の医療を受けられるよう支援している。通院援助、送迎も行い、主治医とは常に相談できる関係にある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的を受診し、必要に応じてアドバイスをもらっている。常に相談できる態勢にある。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置し、利用者の健康管理を行っている。職員と看護師による報告・連絡・相談も確実に行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された場合は、定期的にお見舞いし、担当医師、看護師等からの意見も踏まえ、本人が安心して早期に退院できるよう支援している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時、重度化指針を家族に提示し、当事業所でのターミナルケアの体制等について、本人、家族が理解した上で、当事業所でのターミナルケアを望まれ場合は、医師の指導の元に取り組む用意がある。	○	看取りに関する、職員の意思統一、準備、検討を怠らないようにする。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化においては本人、家族の意向を尊重し、重度化指針に沿って対応している。障害が重度になったからといって退去していただくことはない。終末期ケアも指針に沿って対応することになるが、これまで実際の取り組み例はない。	○	看取りに関する、職員の意思統一、勉強会を開催する。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	これまでの生活が継続するよう、細かいことまで十分に情報提供を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライバシーを損ねることのないよう漏洩防止の注意をはらっている。利用者の自尊心に気を配り、誇りを傷つけることのないように対応している。	○ 何気ない職員の声かけ、言葉かけが相手を傷つけていないか職員同士で注意をはらっていく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者のペースやその時の気持ちを大切に声かけ、働き掛けを行っている。小さな事でも、利用者自身が自分で決めたり、納得して行動できるよう努力している。	○ 複数の選択肢の用意と提案
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、おやつといった一日の大きな節目の時間は設定しているが、それ以外は基本的に利用者のペースにあわせて行っている。カラオケがしたいという気持ちが集まれば、直ぐに始める等その時の気持ちを大切にしている。	○ 一人ひとりの気持ちを大切に、柔軟に直ぐに対応できる体制作りを進める。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望を取り入れ、希望する店でカット、毛染め等行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的に法人内の給食を利用しているが、月に数回事業所内での調理を実施している。調理、盛り付け、配膳等できる場所は利用者と共に行っている。また、畑で採れた野菜など調理に活かしている。	○ ホーム内調理回数を増やし、利用者と共に食事作りを楽しむようにする。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのお菓子を一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	たばこは安全に管理し、好きな時に吸えるようにしている。好みのお菓子等要望があれば用意している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個別の排泄状況を理解し、排泄用具の選択、トイレ誘導をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	目安としての曜日は決めているが、本人が入りたいと希望される時は入れるようにしている。	○	夜間入浴の実施
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの夜間の生活習慣を尊重しながら、室温、採光調整を行い、ゆっくり休息がとれるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を理解し、得意な事や今したいこと等役割をもって暮らせるよう支援している。	○	継続的な支援を行う。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で金銭管理ができない方は事業所で管理しているが希望があれば随時使用できるようにしている。また、小額の場合は自分で管理していただき、必要な時に自分で支払いをしてもらっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者本位の外出支援が継続的にできているとはいえないが、要望や希望は尊重して、異なる日には実施できるようにしている。	○	その日の希望に沿った外出支援の実施
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	誕生日外出を中心に、外出計画を立て本人の希望にそった外出ができるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は子機を使い自室から使用できるようにしている。携帯電話の使用も自由であり、年賀状、手紙の代筆等の支援も行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪問出来るようにしている。お茶やお菓子を差し上げたり、楽しい雰囲気でご過ごせるよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は人としての尊厳を傷つける行為であり人権侵害になることを職員は意識するよう注意しあっている。	○	言葉による身体拘束以外の拘束が行われていないか、職員同士で注意しあう。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	暗証番号による自動ドアが取り付けられており、カギを掛けない状態にしても重くてドアが開けられない。日中、天気の良い日は開放するように取り組んでいる。	○	玄関ドアの改造
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の状況、状態を常に把握できるようさり気なく様子を伺っている。構造上、記録や作業中にも見守りやすい構造になっている。夜間も1から2時間おきに様子観察を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態に応じた安全対策を講じている。夜間、見守りが手薄になる厨房には仕切り戸を設置し、包丁、石鹼、洗剤、吸殻等の後始末等所定の位置に仕舞うよう取り決めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	防災訓練は毎月行っている。事故の大小に関わらず、事故報告書への記入を義務づけ、職員への周知徹底、対応策の協議を行っている。家族への報告相談も行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員は消防署から応急手当の職場講習訓練を受けている。急変・事故に対応した応急マニュアルを用意している。	○	継続的な講習受講を行う
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を毎月実施するとともに、町内会の防災部にも訓練の様子を見ていただき、町内会として二次避難援助の協力の約束を得ている。また、地震を想定した総合防災訓練も行っている。	○	職員を順次防火管理者の講習に参加させていく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状態変化に応じ、家族との連携を図りながら、抑圧感や閉塞感を与えることのないようリスク管理を行うようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの体調変化に留意し、いつもとちがう変化を感じた場合はバイタルチェックを直ぐに行うと共に、看護師、医師に相談し早期対応、早期判断を心がけている。	○	情報の伝達が100パーセント行われるよう職員の意識を高める。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を個別ファイルに添付し、服薬に際しては薬袋を個別の容器にいれ、本人の前で開封し服用してもらうようにしている。ふらつき等がある場合は、副作用を常に考慮し医師に相談している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	看護師、栄養士と相談しながら、飲食物を工夫し、散歩等適宜運動するように努めている。	○	個々に応じた便秘対策、柔軟な食材提供ができるようにする。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの声掛けや指導を行い、自分でできない利用者には職員が手伝ったり、入れ歯洗浄をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が栄養バランスに基づいたカロリー計算を行い、食事、水分摂取量は職員がチェックしている。体調変化に応じ摂取量の記録を行っている。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎年、利用者、職員ともにインフルエンザ予防接種を行っている。各種感染症対応マニュアルを作成し、予防、対応策を講じられるようにしている。また、車椅子、手すり、椅子、トイレ等随時消毒し、職員は手洗い、うがいの励行に努めている。	○ 訪問者の意識を高める工夫をする。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	管理栄養士の指導管理のもと食材管理はできている。台所、調理用具等は次亜塩素酸ナトリウム液で除菌に努め、乾燥機を使用している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の位置や建物の前が駐車場になっているため、分かりづらい面もあるが、プランターや椅子・机を置き、なごみやすい雰囲気作りに努めている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって居心地が良く、生活しやすい空間づくりに努めている。廊下の壁に朝顔等季節のものを飾り、花壇で作った花を利用者とともに活かしている。居間からは厨房の様子がよくわかり、常に会話ができるようになっている。	○ 利用者が主体となって暮らしの場を整えていく支援を行う。
82	共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少人数で過ごせる和室(冬季は炬燵使用)をがあるが、段差もあり使用する人がいない。ソファを二つ置き、そこで本を読んだり居眠りしたりしてくつろいでいる。小テーブル等を利用して利用者同士の人間関係には配慮している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に居室には何を持ち込まれても良いようにしており、各自、箆笥や鏡台、仏壇等思いがこめられた物を自由に運びこんでもらっており、ぬくもりのある居室になるようしている。	○	馴染みの物が置いていない居室もある。家族への働きかけ、理解を深めていく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気、室温調整は職員がこまめに行っている。換気扇はエアコン使用時にも温度変化が起きないものを使用し、異臭が生じた場合はすばやく換気し、香を焚くなどしている。	○	室温調整は利用者の身体状況を勘案しながら行う。
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり等状態に合わせた配慮をしている。	○	利用者の自立と安全が両立する工夫を常に行う。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱、失敗、不安等一人ひとりの気持ちや状態を押し量って、目印等配慮している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外周には小規模であるが花壇、野菜畑をつくり、ベンチをおいている。ベランダには松の盆栽を置きベンチに座って眺められるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・利用者自治会を毎月開催し、要望や意見を取り入れた行事や食事、日常生活が送れるように支援している。・ケアプラン事例検討発表会を行い、利用者ニーズの捉え方、